

いっせーのせ

発行 長坂ふれあいのまちづくり協議会・神戸学院大学ボランティア活動支援室

まちの気になる人、お店、場所...

この人に会いたい!



素敵な笑顔で学生を導く



神戸学院大学総合リハビリテーション学部

西垣 千春 教授



西垣教授の著書
『老後の生活破綻
-身近に潜むリスクと解決策-』
(中公新書)

西垣先生は、社会福祉や医療を学ぶ学部の教授です。いま日本社会で話題となっている「生活困窮予防」に関する本も書かれています。大学では、様々な理由から大学での学びを困難と感じ、修学を諦めようとする学生の支援を行う「学生の未来センター」を立ち上げられ、所長をしておられます。

授業や未来センターの仕事を通して、今の学生は多様なつながりが希薄になっていると危機感を感じておられます。コロナ禍の影響で授業のオンライン化が進んだことも要因のひとつです。頼りたいけれど相談できずに一人で問題を抱え込んでしまう学生が増加しています。そのような学生が気楽に相談できる環境づくりが必要だとおっしゃっていました。

地域活動は、神戸や大阪等の行政計画づくりの委員として活躍されています。東日本大震災時には、宮城県名取市の被災者支援スタッフの研修も担当されました。ボランティア活動としては、ゼミ生と共に高齢化が進んでいるキャンパス近隣の集合住宅の夏祭りに参加して、世代間交流の活性化に貢献されています。

「研究や活動を通して、人々の多様性を認め合い、一緒に考えることで、持続可能で住み心地よい社会にしたい」と語られていました。

取材 藤村 浩輝 (現代社会学部2年)

令和6年能登半島地震被災地の1日でも早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

神戸からの応援として、神戸学院大学生はキャンパスや駅前での募金活動から始めています。現地の状況が許せば、学生ボランティアが被災地へ赴くことも考えています。活動は本誌で報告いたします。

2023年12月17日、小寺里づくり協議会（神戸市西区伊川谷町）が主催する竹林整備ボランティアの取材をさせていただきました。協議会は「KOBEゼロカーボン支援補助金」の採択事業として、小寺地区の竹林整備に伴う伐採竹の活用による脱炭素の取り組みを行っている団体です。放置竹林を整備し、管理竹林にすることで環境整備を行ってられます。

学生記者 法学部1年 桐岡 諒音・栄養学部2年 松本 華歩

通常、樹木は深くまっすぐ根を張るので「杭」の役割を果たしていますが、竹は地下茎が浅く横に広がってしまうので土を支えられずに雨が降ると竹林ごと斜面から崩れてしまう可能性が高くなります。また繁殖力が高いため広範囲に竹林が広まるので土砂災害が起こってしまう可能性がさらに高まってしまう。竹は放置してしまうと「竹害」を引き起こしてしまう可能性があるため適度に整備が必要です。

最近では環境に優しい資材として竹の活用が注目されています。小寺里づくり協議会では、竹チップと竹炭を作っておられました。

竹林整備は、竹の伐採から始まり、その竹を燃やし、炭にするまでには意外と時間がかかることを知りました。また竹の伐採や運搬は力仕事でした。そのため、整備には若い人の手助けが必要です。どの地域も高齢化が進んでいますが、この竹林整備には大学生の皆さんや子どもたち、そして多くの世代のボランティアが参加されていました。



伐採した竹で竹炭づくり

学生はノコギリの使い方から教わりながら、一生懸命取り組みました。

取りまとめ役の植條峰雄さんによると竹炭は生ごみの消臭や堆肥化の効果があり、それを用いることは体にやさしい安心安全の野菜の収穫につながります。そして、脱炭素社会の実現のためには、一人でも多くの方の参加が重要であるとのこと。さらに、整備することは、景観が良くなることはもちろん、災害時の被害を抑えることにつながります。日頃の備えと地域の交流は、いざというときにきっと役に立ちます。



竹林伐採をする学生



竹を器にして、美味しかった！

切り出した竹を活用してこんなことも…

かつてはタケノコの採取や、建材や雑貨などの生活用品として使われるなど、重宝された竹ですが、安い輸入タケノコやプラスチックの台頭で需要が減り、適切に管理されない竹林が増えています。

放っておくと無尽蔵に広がるため、周囲の植生を脅かし、獣の隠れ場所となって獣害を引き起こす原因にもなる竹林。放置竹林の問題を解決する一助になればと、区内の竹林を整備する際に切り出した竹でおもちゃを作りました。ポウリングや昨今話題のモルックなどで遊べます。

また、おもちゃは竹製なので遊んでいて割れてしまっても、燃やせば炭として再利用もできます。さらには、運搬用のかごを河川敷や農地にはびこる葛の蔓で作ることで、邪魔者扱いされる竹や蔓を価値あるものに生まれ変わらせました。

竹のおもちゃはノコギリが、かごは剪定はさみがあれば作れます。興味があれば、ワークショップなどしますので、ぜひふれあいのまちづくり協議会にお知らせください。

神戸市西区役所伊川谷出張所 亀田 道晴



竹で作ったおもちゃと葛の蔓のかご



モルックで世代間交流

2023年11月2日～11月5日に、大学祭が開催されました。前半2日間はポートアイランドキャンパスで、後半は有瀬キャンパスでの実施です。

ボランティア活動支援室学生スタッフ災害班は「被災地応援物産展」ブースを出展し、神戸から被災地を支援する目的で、被災地の商品を神戸に取り寄せて販売し、その売上金を被災地に寄付します。今回は宮城県石巻市の名物である石巻焼きそばと東北、熊本の被災地の物産品を販売しました。

石巻焼きそばは、連日大盛況で石巻市を多くの方に知っていただく機会になりました。被災地の物産は銘菓など10品目を取り寄せ、こちらも多くの方に購入していただくことができました。予定していた販売数をすべて販売することができ、無事大学祭を終えることができました。

今回の被災地物産展をきっかけに被災地のことを少しでも多くの方に知っていただくことができました。

法学部2年 上田元輝

神戸学院大学祭の報告



防災訓練にご参加ください！

長坂地域総合防災訓練のご案内

日時 2024年2月25日(日) 10:00~12:00

※9:30より学校ピロティで受付開始

会場 神戸市立長坂小学校 校庭、体育館等

※雨天のときは体育館等屋内

◇内容◇

- 1.避難訓練 車椅子搬送、煙からの避難方法、ダンボールベッド組立
 - 2.消火訓練 消火器取扱法、放水訓練
 - 3.救急救命 AEDを用いた心肺蘇生訓練、簡易担架による搬送訓練
 - 4.パネル展示 被災地でのボランティア体験、防災クイズ(景品つき)
 - 5.炊出し訓練 豚汁炊出しと試食
 - 6.神戸市消防音楽隊演奏 屋外演奏(雨天のときは屋内演奏)
- 今年は神戸市消防局の震災体験車「ゆれるん」も来ます！



長坂ジュニアチーム

皆さん、長坂ジュニアチームをご存じですか？ 長坂小学校の4年生～6年生なら誰でも入隊できます。隊員は、防災訓練に参加したり、防災について学ぶことによって、自分や家族の身を守ることの大切さを知ります。また、地域の人達と一緒にボランティア活動に参加して、授業とは違った場で地域の人達と触れ合い、人の役に立つことの喜びなどを体験します。これらの活動は、長坂ふれあいのまちづくり協議会のメンバーが中心になって行っています。10年以上続いている活動です。

今年度は年度当初の予定通り10回活動しました。特に、8月に行われた神戸学院大学ボランティア活動支援室防災班の皆さん主催の防災デイキャンプでは、とても楽しく学びました。また、10月にコープデイズで行った共同募金運動には、地域の人達が沢山来てくださり、善意の気持ちを頂きました。とても良い経験になりました。

3月に担任の先生から募集案内が配られます。年に12回ほどで、費用は必要ありません。ぜひ申し込んで下さい。楽しく活動しましょう。



新規隊員
募集！

防災情報誌『いっせーのせ』VOL.12

発行 2024年2月1日

発行者 長坂ふれあいのまちづくり協議会

神戸学院大学ボランティア活動支援室

連絡先 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

神戸学院大学 ボランティア活動支援室

T E L 078-974-1551(大学代表)

E-mail kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp